



えぼ丸通信 No.6



えぼし麻呂

げんき丸

- 1P 病院とケアマネジャー連携検討会
- 2・3P 専門職紹介 歯科医師
相談実績
- 4P 住民向け講演会
多職種連携研修会

発行元：茅ヶ崎市保健所
 地域保健課在宅ケア相談窓口
 〒253-8660
 茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目 8-7
 Tel.0467-38-3319（直通）



茅ヶ崎市・寒川町 病院とケアマネジャーとの連携検討会開催

平成30年9月14日に、茅ヶ崎市・寒川町で開院している9病院と、介護保険を利用する方の相談役となるケアマネジャーとが集まり、それぞれの立場で病院と在宅医療の連携について話し合いを行いました。

現在、地域ごとに構築を進めている「地域包括ケアシステム」(*1)を推進するために、病院と在宅医療との連携をいかにスムーズに行うかということが重要な課題となっています。介護保険の申請時に必要な主治医の意見書や、入退院時の情報提供など関係者間での迅速な対応が求められており、日頃の連携に関する問題点を出し合いながら優先度の高い項目について話し合いました。今後は、ここで話し合った内容を元に、関係者間での連携のために具体的なルール作りを行っていきます。

病院と在宅医療との連携がスムーズに進むことは、住民の方にとっても”安心して住み慣れた地域に住み続ける”ことに繋がると考えています。これからも、この会を通して関係者間で意見を出し合い、より連携を深化させていくことを目指していきます。

*1：一厚労省「地域包括ケアシステム」より抜粋—

「可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを、人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制を構築する」



地域医療介護専門職紹介

第3弾 歯科医師

在 宅の現場で歯科医師？と思われるかもしれませんが、**ん**が、診療室での治療はほぼ全て在宅でも提供できる世の中になっています。主に入れ歯の調整が多くなっていますが、最近は「口腔機能低下症」といういわゆる「オーラルフレイル」の状態です。食事ができない方のリハビリテーションも行っています。対象は要介護状態の方になりますが、場合によっては訪問が難しい事もあります。



最 近遭遇したケースですが複雑でした。「入れ歯が合わなくなった」という要請があり訪問しました。その患者さんは退院後で、入院前には「入れ歯は使えていた」との事でした。自宅に戻ってから食べられなくなっており、入れ歯を入れると落ちてしまうという事でした。口は話す・食べる・息をする場所です。その機能を維持するためには口だけが関係しているのではなく全身が関係しているため「食事ができない」は、様々な方向からなぜ食べられないのかを考える必要があります。入れ歯だけ調整して解決する症例は少なく、全身的な複雑な要素が絡み合った症例を多く感じます。

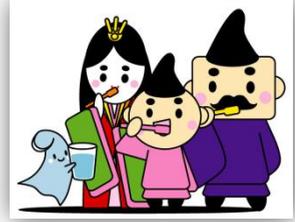
ま た、話す事も筋肉を使います。全身は繋がっているため口だけの問題ではありません。そう考えると「入れ歯が合わない」は単に入れ歯の調整だけではなく全身のリハビリテーションが必要なケースもあります。咽（ムセ）る事も同様に考えられます。

食 べる行為はリズム運動で構成されています。その運動を構成するのは筋肉です。2週間運動しないと高齢者の場合は1/4の筋肉を失います。また、2週間の入院で7年分の筋肉が失われると言われていています。従って入院中にリハビリテーションをしないと歩けなくなりますし、歩かないと口も動きません。入院中から対策されていれば改善されるケースも多く感じます。

今 年で訪問診療を行って3年目ですが歯科だけではどうにも



ならないと感じる事が多かったのは言うまでもありません。他の職種と連携して食べられる事を作り上げていく喜びを感じながら仕事できる事が今の満足感につながっているように思えます。現場では苦悩する事も多くありますが顔の見える関係により多職種で助け合って一人でも多くの方に食べられる事を提供していきたいです。



茅ヶ崎では茅ヶ崎歯科医師会が運営する在宅歯科医療地域連携室を開設しています。お困りの際は 0467-54-0993 までご連絡下さい。

茅ヶ崎歯科医師会 内間 恭洋

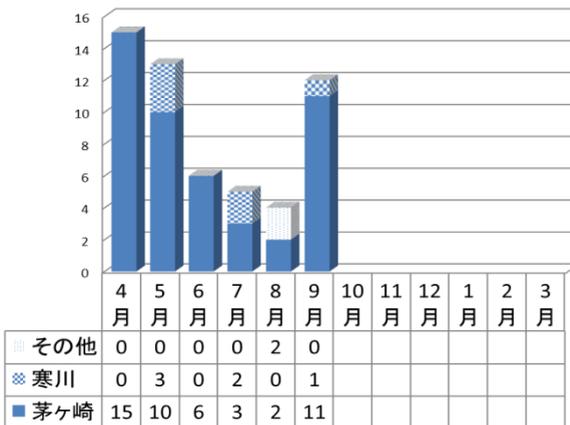


在宅ケア相談窓口相談件数

平成30年9月末現在

月別新規相談者住居

■茅ヶ崎 ×寒川 □その他



相談内容概要

住民の方からの相談は、認知症やかかりつけ医に関することが多い傾向となっています。家族の困りごとに関する相談もあり、関係窓口をご紹介することもあります。

専門職には、専門科の訪問診療に関することや地域の医療資源などの相談に対応しています。



☆☆住民向け講演会の報告☆☆

講師：上野千鶴子先生

テーマ：「おひとりさま」が最期まで自分らしく生きるには
～安心して老いるために準備すること～

平成30年9月24日に寒川町民センターで開催



今回、大きなホールが埋まるかと心配しましたが、それは杞憂でした。蓋を開けてみれば参加人数548名、広い寒川町民センターが狭く感じられる程盛況となり、関心の大きさを実感しました。

聴衆の皆さんも、非常に熱心に耳を傾けられており、講演終了後の質疑応答でも活発に意見を述べられていた姿が印象的でした。アンケートでは上野先生の前向きな生き方に感化されたと答えた方も多く、これからの自分の生き方を考える良い機会になったのではないかと思います。

<講演の後で参考図書について質問を頂きましたので、主なものを記載します>
「おひとりさまの老後」「男おひとりさま道」「おひとりさまの最期」：上野千鶴子
「上野千鶴子が聞く 小笠原先生、ひとりで家で死ぬますか?」：上野千鶴子・小笠原文雄
「介護施設で死ぬという事」講談社 2016：高口光子
「老後はひとり暮らしが幸せ」水曜社 2013年：辻川寛志
「おひとりさま VS.ひとりの哲学」：山折哲夫・上野千鶴子



平成30年度 多職種連携研修会 <専門職対象>

年間テーマ：「それぞれの役割を理解して、連携の質を高めよう」

第16回 平成30年7月12日 参加者315名

テーマ：がん患者の終末期における連携を考える

在宅医療でご活躍されているお二人の医師に講演をお願いしました。

「病院の視点から」水沼医院院長水沼信之先生・「在宅の視点から」ひきのクリニック院長引野雅子先生にそれぞれ貴重なお話しをしていただき、これからの在宅における終末期医療連携に対する大きな示唆が得られたと思います。

第17回 平成30年10月18日 参加者206名

テーマ：自分の仕事を知ってもらおう（在宅への想い）

☆座長：大木教久医師（茅ヶ崎医師会理事・大木医院院長）

薬剤師：芦刈典子氏
理学療法士：森元幸太郎氏
言語聴覚士：古木志樹子氏
作業療法士：関口なつき氏
管理栄養士：吉野祐子氏



第18回 平成31年1月24日予定

テーマ：がん患者の終末期緩和ケアを語ろう（仮）